

古文 読解問題 「竹取物語」～天人の迎え～①

かかるほどに、宵うち過ぎて、①子の時ばかりに、家のあたり昼の明かさにも過ぎて光りたり。望月の明かさを、十合はせたるばかりにて、^(a)ある人の毛の穴さへ見ゆるほどなり。大空より、人、雲に乗りて降り来て、地より五尺ばかり^(b)上がりたるほどに、立ち連ねたり。内外なる人の心ども、物に^(c)おそはるるやうにて、

②あひ戦はむ心もなかりけり。からうじて思ひ起こして、弓矢をとりたてむと^(d)すれども、手に力もなくなりて、萎えかかりたる中に、心さかしき者、③念じて射むとすれども、ほかさまへ行きければ、荒れも戦はで、心地ただ痴れに痴れて、まもりあへり。

立てる人どもは、装束のきよなること、物にも^(e)似ず。飛ぶ車一つ具したり。羅蓋さしたり。その中に王とおぼしき人、家に、「造麻呂、まうで④来。」と言ふに、猛く思ひつる造麻呂も、物に酔ひたる心地して、うつぶしに伏せり。いはく、「なむぢ、をさなき人。いささかなる功德を、翁つくりけるによりて、なむぢが助けにとて、片時のほどとくだししを、そこらの年ごろ、そこらの黄金給ひて、身を変へたるがごとくなりたり。かぐや姫ひめは、罪をつくり給へりければ、かくいやしき己がもとに、しばしおはしつるなり。罪の限り果てぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く。あたはぬことなり。はや出だしたてまつれ。」と言ふ。翁、答へて申す、「かぐや姫を養ひたてまつること、二十余年になりぬ。『片時』とのたまふに、⑤あやしくなりはべりぬ。また異所に、かぐや姫と申す人ぞおはすらむ。」と言ふ。「ここにおはするかぐや姫は、⑥重き病をし給へば、え出でおはしますまじ。」と申せば、その返り事はなくて、屋の上に飛ぶ車を寄せて、「いざ、かぐや姫、きたなき所に、いかでか久しくおはせむ。」と言ふ。立て籠たる所の戸、すなはち、⑦ただ開きに開きぬ。格子どもも、人はなくして開きぬ。嫗いだきてゐたるかぐや姫、外に出でぬ。えとどむまじければ、たださし仰ぎて泣きをり。

問一．次の文章は『竹取物語』について説明したものである。空欄（一）（二）の中に入る言葉を答えなさい。

『竹取物語』は（一）時代に書かれたとされ、作者はわかっていない。（二）『物語』の「絵合」の巻に「物語の出で来はじめの祖」と評されていることから、日本最古の物語とされている。内容は、かぐや姫の生い立ち、五人の貴公子と帝の求婚、かぐや姫の昇天の三部となっている。

問二．傍線部(a)～(e)の動詞の活用の種類と活用形を答えなさい。（○行○活用○形）

問三．傍線部①「子の時」とあるが、現在の何時ごろにあたるか、次の選択肢から適切なものを選びなさい。

- ア．午後十一時から午前一時ごろ イ．午前一時から午前三時ごろ
ウ．午後七時から午後九時ごろ エ．午後九時から午後十一時ごろ

問四、傍線部②「あひ戦はむ心もなかりけり」とあるが、なぜ戦おうとする心がなくなったと考えられるか、次の選択肢から最も適切なものを選びなさい。

- ア、目の前に降りてきた天人たちが、もののけだと気づき不安になったから。
- イ、天人がやって来た空の様子が、月がいくつも重なっているように光り輝いていたから。
- ウ、空からやってきた天人たちの様子を見て、不思議な力に襲われたような気がしてしまったから
- エ、空から降りてきた天人と翁が半試合を始めたため、戦う必要がなくなったから。

問五、傍線部③「念じて」とあるが、ここでの意味として適切なものを次の選択肢から選びなさい。

- ア、唱える イ、願う ウ、我慢する エ、狙う オ、諦める

問六、傍線部④「来」の活用形と読み方を答えなさい。

問七、傍線部⑤「あやしくなりはべりぬ」とあるが、なぜ翁わそう思ったのか、次の選択肢から適切なものを選びなさい。

- ア、二十年以上育ててきた娘が、罪を負って下界に降りてきたと信じることができなかったため
- イ、長年一緒に暮らしていたにも関わらず、「ほんのしばらくの間」と天人が発言したため
- ウ、空から降りてきた人たちがものけのような力を使い、自分たちをだましていると感じたから
- エ、長年病気を患っており、少しの間も自分のそばから離れたことがないから

問八、傍線部⑥「重き病をし給へば、え出でおはしますまじ」を現代語訳しなさい。

問九、傍線部⑦「ただ開きに開きぬ」とあるが、ここで使われている「ぬ」と同じ用法のものを次の選択肢から選びなさい。

- ア、思ひ出でぬことなく、思ひ恋しきがうちに、この家にて生まれし女子の：
- イ、京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。
- ウ、生まれしも帰らぬものをわが宿に小松のあるを見るが悲しさ：
- エ、渡守、「はや舟に乗れ。日も暮れぬ。」といふ：

問十、天人が下界を見下いると考えられる表現を文中から十字で書き抜きなさい。

読解問題 「竹取物語」 天人の迎え」 ① 解答・解説

問一. x 平安 y 源氏

問二. (a) ラ行変格活用 連体形

(b) ラ行四段活用 連用形

(c) ハ行四段活用 未然形

…打消の語をつけると「おそはず」となるため四段活用。下に受身の助動詞「る」があるため未然形と判断できる。

(d) サ行変格活用 已然形

…サ行変格活用の変化を覚えていれば已然形と判断できる。下につく「ども」から判断することも可能。

(e) ナ行上一段活用 未然形

問三. ア

…十干の子（ね）、丑（うし）、寅（とら）、卯（う）、辰（たつ）、巳（み）、午（うま）、未（ひつじ）、申（さる）、酉（とり）、戌（いぬ）、亥（い）で二十四時間を表示し、2時間毎に割振り、この2時間間を「一刻」とする。

問四. ウ

…「念ず」には①神仏に願う、②我慢する、の2つの意味がある。今回は②

問五. ウ

問六. 活用形…命令形 読み方…こ

問七. イ

問八. 重い病気をしていらいっしやるので、出ていらいっしやることはできないでしょう

問九. エ

…「ぬ」には未然形接続の打消の助動詞と連用形接続の官僚の助動詞の2つがある。今回の「開き」はカ行四段活用連用形なので「完了」と判断することができる。よってエが正解。他は打消の助動詞。

問十. かくいやしき己がもと